

十月二十日

晴天

於長興

一夜行軍ヲ以テ敵ヲ追撃シ午前一時長興ニ入城ス

午後二時三十分聯隊長ハ各中隊長ヲ長興聯隊本部ニ集メ左記要旨ヲ訓示行フ

聞ク者感極クテ共ニ泣カサルハナク其任務ノ重クナルニ感奮由セサルハナシ

訓示要旨

一上陸方面軍ニ対スル勅語ノ御聖旨ノ傳達並ニ上陸以來各自ノ効力ヲ謝シ

微力相等ノ犠牲者ヲ出シタルヲ惜ミ益ニ各部下ノ團結ヲ堅メ任務ニ邁

進スヘキヲ訓示ス

二午後三時聯隊長長興西北部地區ニ移転シ此處ニ宿營ス

日 日 命 令

十月二十六日

一聯隊長長興北部ニ移轉ス

各本部、中隊ハ該營者ヲ左ノ如ク差出シ小澤少尉ノ指示ヲ受ケタムニ

下士 一、 兵二、

二各隊ハ午九時迄ニ移轉ノ爲會外ニ整列シアルヘシ 同時第四中隊ヨリ軍旗

護衛トシテテ小隊ヲ聯隊本部ニ差カスヘシ

三、長興飛行場清掃ノタメ茅六中隊ヨリ一テ小隊ヲ差出シ115ヨリ出ル中隊長ノ指示ヲ受ケシムヘシ

人馬現況

歩五〇聯隊本部

將校	下士官	兵	計	乘馬	轡馬	馱馬	計	備考
八	一〇	七五	九三					

十月二十日

噴(夜間)

於長興驛

聯隊ハ長興西北部ニ宿營ス

上陸後金山衛城附近ニ軍兵站部長隸下ニ在リシ茅三大隊ハ茅十二中隊ヲ同地ニ

殘置シ伊藤少尉ノ指揮スル歩兵砲一小隊ヲ併セ指揮シ十月 日出發ヲ補

一平湖一嘉興一湖州道ヲ強行軍ヲ以テ茅線ニ追及シ本日午前九時当地ニ

到着聯隊ニ復歸シ聯隊ノ戦力倍加ス

露 營ニ関スル日日命令 十月二十七日

本二十七日露營日直將校ハ115長信澤歩兵少佐トス

二 露營諸勤務ノ交代時刻ハ午右三時トス

三 平出少尉(四)ハ本午右日巡察將校トシ服務スヘシ、依テ午右三時迄ニ旅團司令部ニ

至ルヘシ

四 敵兵及衛兵差出部隊古知シ

警戒部隊 (一ノ小隊) 第六中隊

露營衛兵 (半小隊) 第四中隊

部隊衛兵 (長以下六喇以ヲ含ム) 第七中隊

日 日 命 令

各本部中隊ハ現在携行彈數(手榴彈ヲ含ム)ヲ本日午右十時迄ニ報告スヘシ

(注意小銃、輕機、重機各一銃宛數モ附記ノスト)

先遣隊 命令

十月二十七日午後十一時

一 秋山支隊ハ昨二十六日午後以來夾浦鎮北方高地ノ敵ヲ攻致手中ナリ

第十八師團及國崎支隊ハ協力シテ廣德東方ノ敵ヲ攻撃スル筈

師團ハ各一部ヲ以テ宜興、及溧場ヲ占領シ主力ノ南京ニ向テ追撃ヲ準備ス

二、聯隊(元12 RIA 欠) 工兵一小隊 師團無線機、傳騎(ヲ屬ス)ハ先遣隊トナリ明テハ

日当地出發、荒園東、長崗嶺、長者鎮、戴阜道ヲ經テ溧陽ニ向テ前進シ同地

ヲ確保シテ師團主力ノ同地進歩ヲ容易ナラシメトス、

三、前衛(第2大隊(第6、7中隊欠) 工兵一小隊(平射一分隊屬ス)ハ午前八時公園出發

前記ノ道路ヲ本隊ノ前方約三百米ヲ前進スヘシ

四、爾余ノ諸隊ハ本隊トス午前七時三十分迄ニ公園ニ集合シ左記序列ヲ以テ前衛、

後方三百米ヲ前進スヘシ

五、話 6時 7 IMG III 10 IA 4

通信班 師團無線ハ前衛ノ後尾ヲ續行スヘシ

六、各隊ハ彈藥ヲ充實シ携行口糧少クモ二日分ヲ携行スルヲ要ス

七、余本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

先遣隊長 山本 中佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

茅百十四師團命令要旨

十一月二十七日午後十時五分  
長興

一先遣隊(歩兵第百五十五聯隊(茅大隊)二共)小隊師團通信ノ無線機ヲ廢ス(八明二)

十八日午前八時長興ヲ出發シ荒園裏ト長岡嶺ト張者嶺ト戴草並ヲ經テ

栗陽ニ向ヒ前進シ同地ヲ確保シテ師團主カク同地進ガヲ容易ナラシム

秋山支隊ト連絡スルヲ要ス

彈藥ヲ充實シ且携帶口糧少クモ二日分ヲ携行スルヲ要ス

歩兵第百五十聯隊編成表

隊別	區分	將	校官	兵	計	馬匹	計
聯隊本部		八		八三	九一		
茅四中隊		四		一四五	一四九		
茅機原銃隊		二		三五	三七		

歩兵第百五十聯隊將校職員表 (昭三三三三、現在) 別表添付	計	歩兵砲隊	聯隊砲兵隊	第三大隊	第二大隊
	五九	二	三	二〇	二〇
	一六二五	四二	五九	六八二	五七九
	一六八四	四四	六二	七〇二	二九九
	五五		二	四二	一一
	五五		二	四二	一一

0254



七月二十日  
晴天  
長興より  
煤山に到ル

午前八時山部隊ハ師團先遣隊トナリ長興中山公園集合地ヲ發シ山州山山系ヲ經  
梁陽ニ向ツテ前進ヲ開始ス

長興西門ヨリ出スルヤ直ニ道路狹ク一列縱隊ノ行進ヲ許スノミニテ行軍長徑四  
口以上ナルヘシ

午前十一時ニテ分合溪鎮ニ達ス同地ニ敵ノ遺棄セル朽木附手榴彈(濟南共工廠製)  
下五相ヲ發見シ同地ニテ使用法ヲ研究實驗シ且沂要ノ幹部ヲ集メ教養

シタル後各隊ニ分配携行セシメ敵ノ彈藥ヲ積載セル船及衛生杖ヲ格納庫  
ハ燒却シ尚敵ノ導標等ニヨレハ相当有ナル部隊自峴嶺附近ニ退却集結  
ヲ企図シアルヲ推知セリ

午後四時楊店ニ達セルモ殆ト部落荒廢シテ僅ニ三ノ破家アルノミ其西南方  
約一五斜煤山(山上張家湖南方炭坑所在地)ニ露營ス 從來作戰地域内

ノ住民ハ或ハ遠ク或ハ山地ニ逃シ安ヲ見セサルニ此處ニ於テ初メテ日軍歡迎ノ  
控旗ヲ見 住民ヨリ歡迎セラレ上陸以來初メテ電燈ヲ見ル



露營命令

十月二十八日午後八時三十分  
於 煤山

一、敵情ニ関シテハ新報ヲ得ス

二、先遣隊ハ本夜煤山附近ニ露營セントス

三、各隊ハ別ニ指示セル所ニヨリ露營スヘシ

四、露營日直將校ハ第三大隊大隊長步兵少佐トス

五、露營衛兵ハ部隊衛兵ヲ兼ストシテ第五中隊ヲ將校ノ指揮スル半々小隊

ソ直ニ聯隊本部前ニ差出スヘシ

六、左ノ如ク警戒部隊トシテ圍壁外ニ於テ部隊露營地外ニ對シテ警戒スヘシ

第八中隊

半々小隊

石廟方向

第九中隊

半々小隊

揚店方向

第十中隊

半々小隊

張家溝方向

警戒各部隊ハ密ニ連絡スルヲ要ス

第十四中隊ハ特ニ發電所ノ保護ニ任スヘシ

七、刈倉田少尉ハ巡察將校トス

八、余ハ煤山圍壁内ニ在リ

露營司令官 山本中佐

下達法 要旨ヲ傳ヘタル後命令受領者ヨリテ口達筆記セシム

師團無線ハ本日ノ到達地点ヲ師團ニ報告セントセシモ發電所ニ直接シテ電

ヲク且敵ノ防害ノタメ目的ヲ達セス

先遣隊命令

十月二十日午後十時三十分  
於 煤山

一、敵情ニ関シテハ新報ヲ得ス

二、先遣隊ハ明二十九日午前八時宿營地出發張家湖一長岡顔一張清

鎮道ヲ張清鎮ニ向ヒ前進セントス

三、前衛(四班)ハ午前七時五十分煤山西北端鎮道線路踏切ヲ先頭トシテ集合

スヘシ

四、爾余ノ諸隊ハ本隊トス午前八時迄ニ左ノ順序ニ集合シ前衛ノ後方約三

百米ヲ前進スヘシ

511 日 5 DTL 116 11 II MG RMG IA 4

五予ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

先遣隊長

山本歩兵中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

人馬現況

歩一五〇聯隊本部

將校	下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	計	備
八	九	七六	九三	二		二	去
<small>           坂田信長北條時宗等共八院            服部守將騎金并去重六文            乘馬二八リ         </small>							

十月二十九日

晴天

煤山ヲ去リ

長岡嶺至

ル

一師團無線ハ午前三時ヨリ先遣隊師團間ノ連絡ニ勉メ遂ニ出發迄ニ之ヲ完了セリ

先遣隊ハ午前八時前進ヲ開始ス途中敗殘兵ヲシキモノアリ前衛ノ一部ヲ

撃ツ間キント次テ前衛ノ支那人案内者白峴鎮ニ通スル道路ニ誤リ誘導

セントン行進稍々聲聲ス、主前十時三十分頃友軍飛行機四機命令又乾  
麵麩ヲ投下ス

斯ニテ午後一時前衛ノ先頭ヲ以テ三州山山系若陽嶺脚ニ達シ列縦  
隊ヲ以テ攀登セルモ行軍長徑一層延長シ尖兵ハ午後二時四十分頃木  
隊ノ先頭ハ午後四時頃頂上ニ達スルモ小行李ハ午後五時三十分頃其ノ後  
尾ハ尚ホ南麓ニアリ、該峠ハ比高六〇〇米突斜面頗ル險峻麓ヲ頂  
上迄石段ヲ築キ両側竹林雜林ニシテ車輛ハ殆ト運行セス馬ハ辛クシテ  
登リ得ルモ駄載スル能ハス之カ爲九一式歩兵砲ハ分解シ平射歩兵砲  
小行李ヲ等ハ卸下シ臂力ニ依リ搬送スルノ已マヲ得サルニ至レリ

午後五時三十分頃小行李ハ武装セル約五十名ノ土民ノ妨害ヲ受テ第四中  
隊ハ之ト交戦スルモト約三十分ニテ撃退セリ、A及MGの一部ハ威嚇射撃  
ヲ實施シテ第五中隊ハ直ニ輕装北麓ヨリ再ヒ山頂へ増援セシメタリ此ノ  
如キ情態ニテ此等諸隊ハ掩護部隊タル第四中隊ト共ニ四回此ノ險路ヲ

往復シ全隊ノ集結ヲ完了シタルハ三十日午前四時ニシテ立川衛ノ通過ヲ後尾ノ集結ヲ終ルマテ前後十五時間ヲ費セリ爲ニ前進目標タル張着嶺ニ達スルヲ得スニ十九日夜ハ長岡嶺附近ニ停止ス

一、歩作命第 号

先遣隊命令

十月二十九日午後六時  
於茗湯嶺北部山麓

一、五長ハ部下大隊ヲ以テ山麓ヲ收容シタル後長岡嶺ニ追及スヘシ

二、状況要スレバ更ニ部ヲ茗湯嶺ニ増援セムヘシ

三、特ニ三州山系北麓ヲ白硯嶺ニ通スル道路ヲ警戒スルヲ要ス

先遣隊長 山本中佐

下達法 筆記セルモノヲ交付ス

一、歩作命第 号

先遣隊命令

十月二十九日午後八時三分  
於長岡嶺

一、敵情ニ関シテハ新報ヲ得ス

武器ヲ有スル土民約五十ハ小行李ヲ積ヒタルモ茅四中隊ハ之ヲ撃退セリ  
 二先遣隊ハ本夜長岡嶺附近ニ露營セントス  
 三前衛ハ張清鎮及石門方面ヲ警戒スヘシ  
 四諸隊ハ別ニ指示スル所ニヨリ露營スヘシ  
 五茅四中隊ハ聯隊長直轄トス  
 六露營日直將校ハ内田大尉トス  
 七露營衛兵トシテ茅四中隊ヨリテ小隊ヲ直ニ聯隊本部ニ差出シ露營日  
 直將校ノ指示ヲ受クヘシ  
 八通信網ハ先遣隊本部及茅三大隊本部間ニ有線連絡ニ任スヘシ  
 九給養ハ擔帶口糧甲ニ依ルヘシ  
 九予ハ長岡嶺中央ニ在リ  
 先遣隊長 山本歩兵中佐  
 下率法 命令受領ヲ集メ口達筆記セシム

一、蒙百十四師團命令

於 十月二十八日 午後十時 廿三分

一、秋山支隊ハ夾浦鎮北方高地ヲ擊破シ本二十八日朝來之ヲ追擊中ニシテ正午湯渡ヲ通過北進セリ 先遣隊ハ敵ノ防害ヲ受ケルコトヲ本日午後四時石廟附近ヲ通過北進セリ

二、師團ハ逐次兵力ヲ深陽、宜興間ニ推進シ爾後ノ前進ヲ準備セントス

三、興旅團長ハ旅團ノ残余ヲ指揮シ明二十九日午前九時長興發夾浦鎮一丁山市一張清鎮一載埠鎮道ヲ深陽ニ向キ前進シテ先遣隊ヲ併セ指揮シ深水方向ニ対スル河間主力ノ前進ヲ容易トシシムルニ野砲兵第三大隊ヲ長興ニ於テ工兵第一中隊及秋山支隊ヲ無線機ヲ宜興ニ於テ其ノ指揮ニ入ラシムルニ  
四、余ハ長興ニ在リ

一、同級士民ノ言ヲ綜合セハ敵四五百八本二十九日正午頃張清鎮ヲ經テ載埠鎮方面ニ

退却セルヲ知ル

人馬現況

歩五〇隊隊本部

將校

下士官

兵

計

乘馬

輓馬

駄馬

計

備考

八

九

七六

九三

=

=

二月三十日  
晴天

長岡嶺ヲ  
去載阜  
嶺ニ到ル

發ス

午前七時三十分全隊將校ヲ本隊ノ先頭ニ集合セシメ聯隊長ハ行軍軍紀  
射撃軍紀及部下督勵ニ就キ所要ノ注意ヲ與ヘタル後長岡嶺ヲ出  
發ス

午前七時頃張者嶺ニ達シ部落ニ於テ敵負傷兵落伍兵若干アリテ敵ハ昨午  
九時午前八時当地着午後三時出發載阜嶺ヲ經テ溧陽方向ニ退却セルヲ知ル

午後三時四十分前衛ハ載阜嶺東方一軒ノ高地附近ニ於テ土民ノ言ニ依リ載  
阜嶺ニハ四五百ノ敵兵アルヲ知リ次テ尖兵中隊長ヨリ兵力不明ノ敵部落内ニ  
於テ炊爨中ナル報告ヲ受ケ直ニ先遣隊長ハ敵ノ不意ニ乘シ之ヲ撃破セ



ントレ展開命令ヲ下達ス

第一線展開中載埠鎮中兵附近ヲ敵ノ一部小銃及自劔火器ノ熾烈ニ射撃ヲ開始セルモ各部隊ハ巧ニ地形地物ヲ利用シテ神速輕快ニ展開シテリ猛烈果敢ニ攻撃ス、不意ニ衝カレタル敵ハ対応スルノ皇ナク一部抵抗シタル外掛章狼狽算ヲ乱シテ西方及西南方ニ敗退ス、第一線西大隊ハ直ニ之ヲ追撃シ敵ハ西側高地上ニ於テ抵抗ヲ試ミシモ堪ヘズ遂ニ總退却シ己方ナキニ至レリ時ニ午後六時ニテ日没トナリ同地ノ掃蕩後露管ス

先遣隊 命令

十一月三十日午前七時三十分  
於長嶺

一、諸隊ノ情報ヲ綜合スルニ敵ノ一部ハ昨ニ十九日正午頃張者鎮ヲ載埠鎮ニ向ヒ退却セルモ如シ

二、先遣隊ハ午前九時手店北端出發長嶺鎮ヲ張者鎮一載埠鎮ヲ經テ先ヅ姜家辺(載埠西北方四裡)ニ向ヒ前進セントス

三、前衛(平縣分隊ヲ屬ス)ハ午前八時三十分迄ニ手店北端ヲ先頭トシテ集合シ

本隊ノ前方三百米ヲ前進スヘシ

四、五兵隊ハ先兵中隊ノ後尾ヲ前進シ後續部隊及砲兵ノ通過ヲ顧慮シ張  
者鎮ト姜家辺道ノ補修ヲ實施スヘシ

五、爾余ノ諸隊ハ本隊トス。午前十時三十分迄ニ左ノ序列ヲ以テ前衛ノ後方ニ  
集合スヘシ

1/3 1 P 5 DTL 11(5) IA 6 1MG 4 III(20) RMG 10

六、第六中隊ハIAノ前進ヲ援助スヘシ

七、予ハ本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

先遣隊長 山本 歩兵中佐

下連法 命令受領ヲ集メテ口達筆記セシム

先遣隊 命令

十一月三日午後四時  
於戴埠鎮東方高地

一、敵ハ戴埠鎮部落内ニ炊爨中ナリ

二、先遣隊ハ此ノ敵ヲ奇襲シ之ヲ撃滅セントス

三 前衛ハ左第一線通路ヨリ左三厩削シ南方ヨリ敵ノ退路ヲ遮断スル如ク攻撃スヘシ

四 第三大隊(カバタケヲ併ス)ハ右第一線載埠鎮東方高地ノ線ニ厩削シ載埠鎮北端ヨリ敵ノ背後ヲ遮断スル如ク攻撃スヘシ

第一線第二大隊ノ戦斗地境ハ載埠鎮東方鞍部ニ及リテ連ヌル線トス

五 歩兵砲隊ハ左前方高地附近ニ陣地ヲ占領シ主トシテ左大隊ノ戦斗ヲ協力スヘシ

六 爾余ノ諸隊ハ予備隊トス 右大隊ノ後方ヲ前進スヘシ

八 予ハ左大隊ノ後方ヲ前進ス

先遣隊長 山本 歩兵中佐

下達法 命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

先遣隊 命令  
於 八月三十日午後五時三十分  
載埠鎮

一 第三大隊ハ当面ノ敵ヲ撃倒シタル後一部ヲ以テ西側台地ヲ占領シ西方及

西南方ニ於テ警戒セシメ主力ハ部落南端附近ニ集結スヘシ

二、第三大隊ハ当面ノ敵ヲ撃退シタル後一部ヲ以テ西側台地ヲ占領シ西方及西北方

ニ於テ警戒セシメ主力ハ部落北端附近ニ集結スヘシ

三、第六中隊ハ部落北端ヨリ南端ニ向テ殘敵ヲ掃蕩スヘシ

四、爾余ノ諸隊ハ別ニ指示スル位置ニ集結スヘシ

五、通信網ハ聯隊本部ヲ基点トシ兩大隊間ノ有線連絡ニ任スヘシ

六、余ハ載埠嶺部落中央ニ位置ス

先遣隊長 山本歩兵中佐

下達表 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

露 營 命 令

十一月三十日午後六時三十分  
於 載 埠 嶺

一、敵ノ一部ハ西方ニ敗退セリ

二、先遣隊ハ昨夜載埠嶺ニ露營セントス

三、各隊ハ該營者ヲ指示ニ依リ露營スヘシ

四、露營日直將校ハ北澤大尉トス

五、第七中隊ヲ巡察將校一ヲ差出シ職務セシムヘシ

六、露營衛兵トシテ第六中隊ヲ下小隊ヲ直ニ聯隊本部ニ差出シ露營日直將校ヲ指揮ヲ受ケムヘシ

七、第六、第七大隊ハ各攻撃ヲ担任正面前ノ要點ニ部ノ兵力ヲ殘置整齊セシムヘシ

八、第四中隊ハ約半小隊ヲ張清鎮ニ通スル橋梁附近ニ配置整齊セシムヘシ

九、第六中隊ハ聯隊長直轄トス

一〇、給養ハ擔帶口糧甲ニ依ルヘシ

一一、余ハ戰埠鎮中央ニ在リ

先遣隊長 山本 歩兵中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

先遣隊 命令

十一月三日午後九時ヲ分  
於 戰埠鎮

一、撃退セラレタル敵ノ一部ハ撤却ニ我警武部隊ノ前方ニ停止シ工事ヲ實施スルヲ

一先遣隊八明十二月一日午前七時宿營地出發葛家辺ヲ經テ深陽向テ前進セテス

二諸隊ノ行軍序列本日ニ同シ

三前衛ハ午前七時其ノ先頭ヲ以テ葛家辺道上軒埴鎮西端ヲ出發スベシ

四諸隊ハ逐次其序列ニ入ルヘシ

五四日八時午前七時先遣隊ノ先頭ニ在リ

先遣隊長 山本歩兵中佐

人員現況

歩五〇隊隊本部

將

校

下士官

兵

計

乘馬

靴馬

計

備

考

八

九

七

九

二

二

十二月一日

晴天

載増鎮

去漂陽

到ル

日出 午前八時

日没 午後六時三十分

午前七時露宿地出發、火災ノ爲迂回シ進路ヲ變更シテ北進ス、午前九時頃狗山

手附近ニ於テ敵五六十名ヲ發見シ直ニ之ヲ撃退シ、午後零時前羅庄(漂陽

南方約四紮)ニ達ス、漂陽方向ヨリ避難民續々來ル、茲ニ於テ先遣隊長ハ

相当ノ敵ノ抵抗ヲ予想シ威力搜索ノ部署ヲ以テ敵ノ退路ヲ遮断シ、漂陽

ヲ攻撃スルニ決シ、午後零時三十分前衛司令官ノ位置ニ到リ且茅三大

隊長ヲ招致シ攻撃ニ関スル命令ヲ下達セリ

先遣 隊 命令

於十二月一日 午前 七時三十分 羅庄

一、漂陽附近ニ殘敵伏在セルモノノ如シ

二、先遣隊ハ威力搜索ノ目的ヲ以テ漂陽ヲ攻撃シ、同地ヲ確保シ、師團主力ヲ進出

ヲ容易ナラシメントス

三、前衛(兵力加増)ハ速ニ王村ノ唐家村ヲ經テ綿楊林ニ進出シ、漂陽北半

部ニ對シテ敵手ヲ準備スレ、時ニ敵ノ退路ヲ遮断スルヲ要ス

0271

四、第三大隊（北）ハ速ニ溧陽南側十字路附近ニ進出シ溧陽南半部ニ対シ攻撃ヲ準備スヘシ

五、王村北端宋庄村南端ヲ連ヌル線トス線上ハ右大隊ニ屬ス

六、MGハ王村北側附近ニ陣地ヲ占領シ溧陽城ニ対シ射撃ヲ準備スヘシ

七、MGハ王村北側附近ニ陣地ヲ占領シ射撃ヲ準備スヘシ

八、MGハ王村北側附近ニ陣地ヲ占領シ射撃ヲ準備スヘシ

九、MGハ王村北側附近ニ陣地ヲ占領シ射撃ヲ準備スヘシ

先遣隊長 山本歩兵中佐

下達法 各大隊長ニ口達同時ニ命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

一、前衛ハ直ニ前進ヲ起シ第三大隊ハ續イテ王村ヨリ分進ス午後一時王村ニ於テ前衛司令官ヨリ左記報告ヲ受領ス

一、避難民ノ言ニ依レハ敵ノ縱隊ハ昨日南京方向ニ退却セルモノ如シ

二、土民ノ言ニ依レハ溧陽ニハ現在敵部隊ナシ



三、第三大隊ハ王村唐家村ヲ經テ梁陽ニ向ヒ前進セントス、

先遣隊 命令

十二月一日午後一時十分  
於梁陽南側附近

一、第三大隊ハ西門ヨリ突入シ一部ヲ以テ西門及北門ヲ確保シ警戒スルト共ニ  
主力ヲ以テ西半部ヲ掃蕩シタル後縣政府附近ニ集合スヘシ

二、第三大隊ハ東門ヨリ突入シ一部ヲ以テ東門及南門ヲ確保シ警戒スルト共ニ  
ニ主力ヲ以テ東半部ヲ掃蕩シ縣政府附近ニ集合スヘシ

三、予ハ予備隊ト共ニ第三大隊、直後ヲ前進シ縣政府ニ至ル午後三  
時命令受領者ヲ出マ

先遣隊長 山本歩兵中佐

下達法 要旨命令ヲ下達後命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

一、斯クテ第一線ニ於テハ第三大隊方面ニ於テ家屋内ニ潛メル約五十名第三  
大隊方面ニ於テ約百五十名、敵兵散在セルヲ發見シ之ヲ射殺或ハ刺殺セ  
ルモ我カ進入ヲ知リタル一部ノ敵ハ北方ニ遁走セリ

先遣隊長ハ第三大隊ニ續行ト予定、如ク午後二時縣政府ニ到リ各部隊

掃蕩ヲ待々之ヲ掌握スルト共ニ各大隊ニ命ジ其担任正面ニ將校ヲ候ヲ  
 派遣シ敵情地形ヲ搜索セシム  
 更ニ現在地ヲ確保シ夜ヲ徹スルニ決ス  
 先遣隊命令  
 於二月二日午後三時三十分  
 一、敵ハ南京方向ニ退却セリ  
 二、先遣隊ハ溧陽ヲ確保シ夜ヲ徹セントス  
 三、各隊ハ別ニ指示スル所ニ位置シ左ノ區分ニ從ヒ警戒スヘシ  
 四、東門ヨリ南門南側十字路ニ至ル間  
 五、北門ヨリ西門ニ至ル間  
 第四中隊中隊ハ聯隊長直轄トス 聯隊本部淋血ニ位置スヘシ  
 RMG 1/A ハ警戒急ニ際シ直ニ應ジ得ル如ク準備シアルヘシ  
 四、露營道將校ハMG 小林大尉トス  
 五、露營衛兵トシテ第七中隊ヨリ半ケ小隊ヲ聯隊本部ニ差出し露營日直將  
 校ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

六、第九中隊ヲ巡察將校ヲ差出シ服務セシムヘシ

七、各隊ハ警急ニ際シ直ニ警戒担任正面ニ出動シ得ル準備ニ在ルヘシ

八、給養ハ携帶口糧甲ニ依ルヘシ

九、予ハ深陽中央ニ在リ

先遣隊長 山本 歩兵中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

午後六時帰來セル各々候ノ報告及俘虜土民等執回ヨリ附回四ノ情况ヲ明  
ニス

一、勲功者ノ事績

輜重兵上等兵 金谷 美雄

右者上陸以來歩兵ノ通過ニ困難ナル細路泥濘ノ中ヲ能ク本隊ト行動  
ヲ共ニシ殊ニ山州山系若陽嶺ノ峻嶮ヲ部下ヲ督勵シ重イ小行李ヲノ背  
力搬送ニ依リ突破無言實行職責ヲ果シ作戰行動ヲ容易ナラシメタ  
リ

0275

人馬現況

歩五〇隊本部

將校	下士官	兵	計	乘馬	輓馬	駄馬	計	備考
八	九	七六	九三	二			二	

一、載埠鎮、漂陽附近ノ戦斗

一、戦斗開始又終了日時

載埠鎮 自十一月三十日午後四時  
至十一月三十日午後六時三十分

漂陽 自十二月一日午前十時  
至十二月一日午後三時三十分

二、彼我ノ兵力

一、載埠鎮附近  
友軍 聯隊本部 第三大隊 第三大隊(欠十三中隊) 第四中隊 第五大隊

敵軍 銃中隊(一小隊欠) 聯隊檢閲 銃中隊 歩兵隊ノ半部 五兵

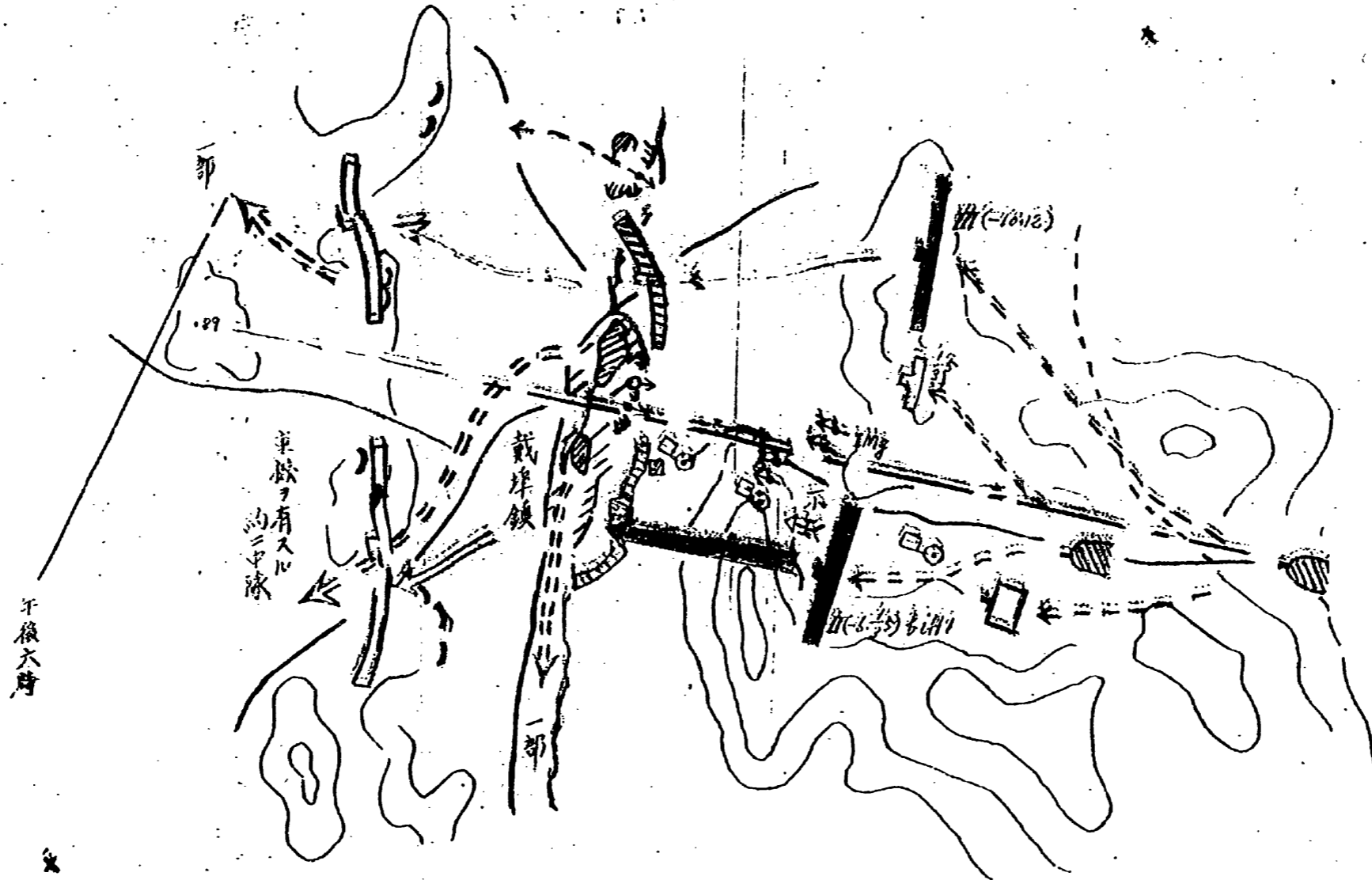
茅中隊ノ一小隊 師團無線一機

敵軍 約五〇〇名

二、狗山子附近

戴埠鎮附近戰鬥經過要圖  
 (於十一月十三日午後)

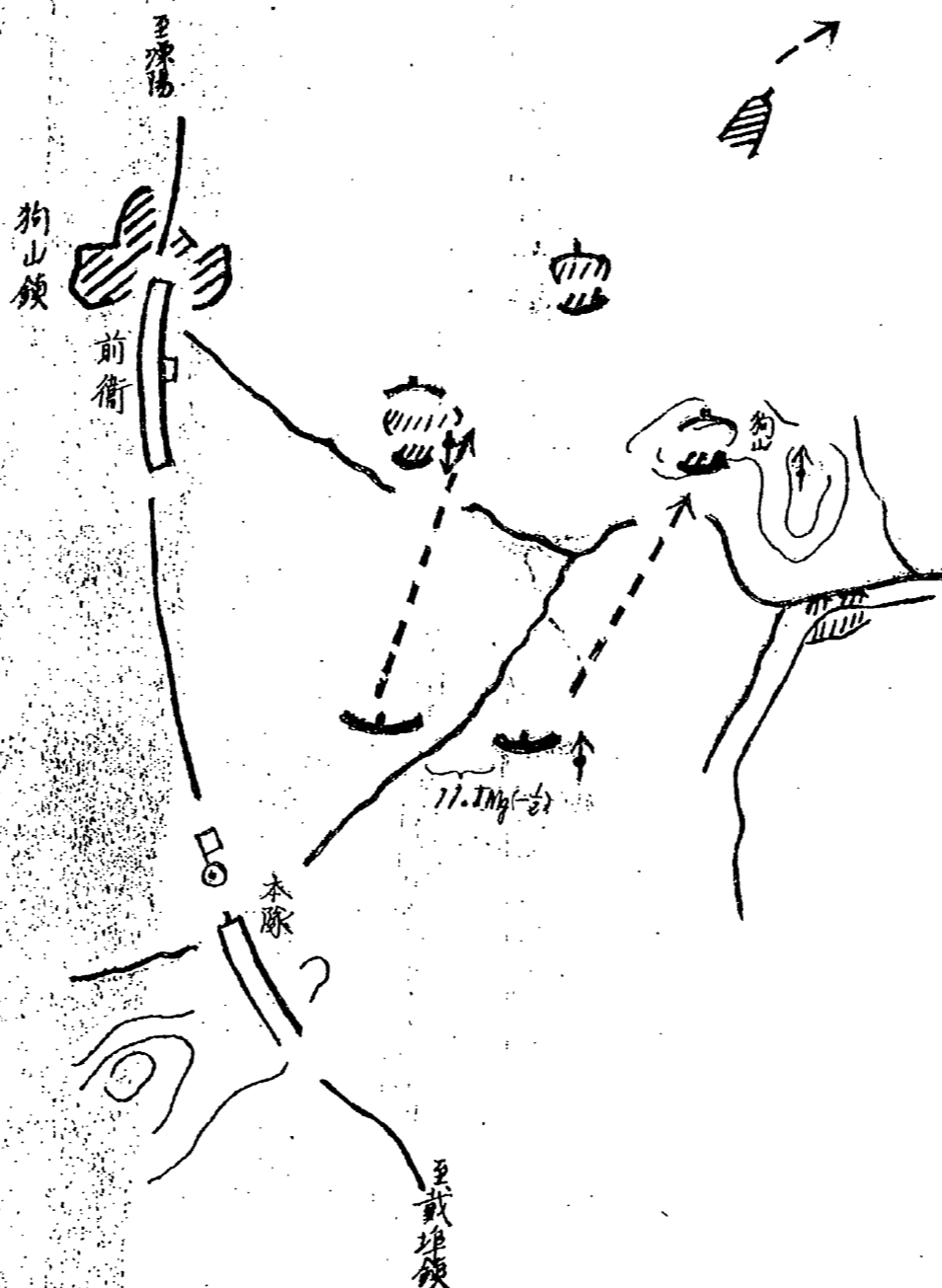
附圖第一



0277

狗山鎮附近戰鬥經過要圖

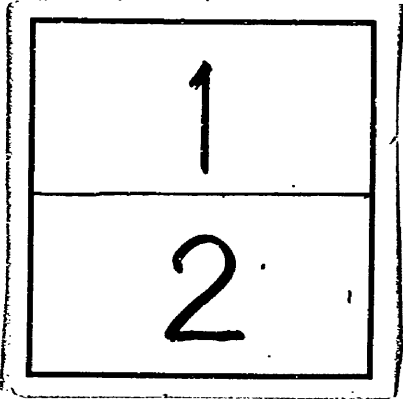
(於二十日六月日午前十時至十一時)



附圖第三其一

0278

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	溧陽付近情報要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	









六、鹵獲表

俘虜	銃	砲	銃彈	手榴彈	器具	藥盒
二	三二七		二三五〇〇	三五箱	二三三	
二〇〇			三七〇〇〇	六八〇		四五〇

十二月廿  
晴天  
於深陽

一、聯隊ハ深陽ニ宿宮ス

二、午前八時旅團主力深陽ニ入城シ歩二五ハ先遣隊トシテ正午出發南渡鎮ニ向  
ヘリ

三、旅團命令ニ依リ第五中隊ノ一小隊(金井小隊)ヲ師團トノ連絡ノ爲宜興ニ派  
遣ス

四、聯隊ハ彈藥糧食ノ一部ヲ師團ニ補充シ明三日早朝ノ出發ヲ準備ス  
一、歩二五ノ作命ヲ發シ

步兵第五百五十聯隊命令

於十二月廿二日午後十一時三十分  
深陽

一、聯隊ハ明三日午前三時四十分迄ニ西川外十字路ニ集合スヘシ

二、第五中隊ハ深陽ノ警備ニ任スヘシ

三行軍序列左如レ

9 ☆ B 5 JL III(-12) 4 JMG IA II(-5) RMG II, 小隊

四余ハ午前三時四十分旅團本隊ノ先頭ニ在リ

聯隊長 山本中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口幸々筆記セシム

日 日 命令 紅朝三日午後二時

二 歩兵少佐 増澤 可也

右第一大隊分任官交代ニ於ケル帳簿金櫃ノ検査員ヲ命ス

休テ大行李到着後速ニ荷具搬スヘシ

旅團命令要旨 於二月一日午後九時三十分 標場

一歩五〇ノ一中隊(機関銃)小隊ヲ附ス(八兵中隊トナリ午前三時五十分)

分、瀋陽―耕讀鎮道上、瀋陽西門西方二〇〇米ニ又路ヲ後尾ト  
シ行軍縱隊(三列)ニ集合シ旅團ノ進路ヲ華村ニ向ヒ前進スヘシ  
本隊トノ距離ハ七〇〇米トス  
出發ハ別命ス

二、爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ同時進歩シ五〇ノ小隊旅團司令部(旅團  
無線ノ一分隊ヲ含ム)歩五〇ノ残余衛生隊ノ三分ノ一順序ニ歩兵中隊  
ノ後尾ヲ先頭トシ行軍縱隊(三列)ニ集合スヘシ

三、歩五〇ノ中隊ハ歩兵中隊ノ直後ヲ續行スヘシ

三、歩五〇ノ中隊ハ旅團主力出發後瀋陽警備ニ任シ後續部隊來  
着セハ旅團ニ追及スヘシ

注意ハ明日ノ行軍ハ約一時間行軍シ十分休憩

ス大休止ハ約一時間

十五日  
晴天  
深陽系  
東洋系  
東洋系

人馬現況				歩一五〇聯隊本部			
将校	下士官	兵	計	乘馬	執馬	馱馬	計備
八	九	六	九三	=			=
<p>一、午前四時深陽出發、<math>\star</math> 五五ノ順序ヲ以テ深水ニ向テ寒氣稍強レ余中  敵ニ遭過スルコトナシ、華村ニ宿營セントスレト先遣隊道ヲ達ヘ連絡ツカス  午右四時四十分上興埠ニ到着シ同時ニ露管ス</p> <p>一、歩一五〇の作命芽 號</p> <p>露管 命令 於華村北 於三月三日午後五時</p> <p>一、飛行隊よりノ報告ニ依リハ後村西北方高地ニハ輕易ナル敵陣地有リ又深水ノ  敵ハ南方ニ退却中ナリ</p> <p>二、旅團取隊、第三大隊(夕) <i>Eng. IA</i>、諸隊ハ不及甲露管區ニ露管ス各  隊ハ別ニ指示スル所ニヨリ配属スヘシ</p> <p>三、露管司令官ハ一五〇隊隊長山本中佐トス</p>							

四、露管日直將校ハ露管日直將校トス	五、露管衛兵トシテ第一中隊ヨリ半ノ小隊ヲ聯隊本部ニ差出シ露管日直將校ノ指示ヲ受ケレムヘシ	六、四ヲ巡察將校ヲ差出シ服務セムヘシ	七、五ヲ露管區東北角 西南角及西方ニ各一部ノ兵力ヲ配置シ警戒セム	シ(ルヲ附シタル下ニ示明)	八、給養ハ携帶口糧甲ヲ使用スヘシ	ソノ充足ハ努メテ現地調便ニヨルヘシ	九、予ハ甲露管區ニ在リ	露管 司令官 山本歩兵中佐	下達法 命令受領者ヲ集メテ口達筆記セム	一歩二五〇作命第 號	歩兵第百五十聯隊命令	十一月三日午後十時 於上興 埠	一、飛水南側地區及現在地西北方約ニ料ノ稜線ニハ輕易ナル敵陣地アルモノ如シ
-------------------	--	--------------------	----------------------------------	---------------	------------------	-------------------	-------------	---------------	---------------------	------------	------------	--------------------	--------------------------------------





上月四日  
晴天

上真環去  
り漂水ニ至  
ル

人馬現況

歩五の聯隊本部

將校	下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	計
八	九	七六	九三	二		二

一、午前七時半漂水ニ向テ、途中敵前進陣地帯ニ入り陣地アルヲ以テ獸キヨ  
予期セシモ抵抗ヲ受クル事ナリ午後四時漂水南方約一〇〇米ニ達ス當時先  
遣隊タル歩二五ハ城内掃蕩中ナリ、聯隊ハ直ニ一部ヲ以テ城内ヲ掃蕩シキ  
後五時漂水ニ入城シ旅團命令ニ依リ露營ス

露營命令

十一月四日午前七時  
於漂水南

- 一、漂水附近ノ殘敵ハ本四日午後先遣隊ニ依リ掃蕩セラル
- 二、旅團(歩二五)配屬部隊ハ本夜漂水ニ於テ露營ス各隊ハ別ニ指示  
スル所ニ依リ露營スヘシ
- 三、露營司令官 山本中佐
- 四、露營日直將校 野呂中尉
- 五、露營衛兵トシテ第四中隊ヲ差出スハ隊ヲ差出スハ巡察將校トシテ第三隊

三大隊ヨリ各二名宛差出シ服教セムヘシ

六、城内警備爲メ左記兵力ヲ差出シ警戒セムヘシ

第三大隊ヨリ 南門ハ半小隊 南西門ハ下士哨

第二大隊ヨリ 東北門ヘ下士哨

七、第四中隊第六中隊ハ聯隊直轄トス

八、給養ハ携帶糧秣ノ甲ヲ使用シ之ヲ補充ハ現地調辦ニ依ルヘシ

露營司令官 山本 中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セム

人員現況 歩五〇聯隊本部

將校	下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	駄馬	計	備考
八	九	七六	九三	二			二	

二月五日 晴天

漂水考  
候家巷ニ

二午前中漂水ニ在リテ微發並休養ヲ實施ス但第十中隊ハ林陵奥方面へ捜索中隊トシテ出シ成果ヲ擧ガシ 午後二時半漂水發飛行場ヲ右見漂水ヨリ約四キロ候家巷ニ午後三時半着宿營ス

歩五〇聯隊本部

一、歩五〇作命 第 號

歩兵第百五十聯隊命令

三月廿五日 午後三時三十分

一、敵情及陣地、企圖ハ歩三入旅作命第五二〇号ノ如シ

林園ハ本月主カヲ以テ、深水北方地區ヲ領有シテ陣地ヲ方山攻撃ヲ準備ス

二、聯隊ハ(第一、第二大隊々)旅團本隊トナリ午後二時出發、貴庄村(深水北方約四料

)ニ向ヒ前進セントス

三、第三大隊(第五中隊々)ハ午後一時出發、烏山鎮ニ至リ、歩三入旅作命第五二〇号

第四項ノ任務ニ服スヘシ

四、第四中隊ヲ一々小隊ヲ深水ニ發遣シ、深水警備ニ任セシムヘシ

五、爾余ノ諸隊ハ午後一時五十分迄ニ左記ノ序列ヲ以テ深水一湖熟鎮道上、深水

東門ヲ先頭トシテ集合スヘシ

○ I TL (5)  
4 (5) IMG 1A Ⅲ (5) RMG Ⅱ 11

六、予ハ聯隊主力ノ先頭ニ在リテ行進ス

聯隊長 山本 中佐

下達表 各隊命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

露管 命令

十一月五日午五時  
於候 家 巷

一、敵情ニ関シテハ既ニ諸官ノ知ル通リ

二、旅団司令部、歩兵連有五十聯隊主力ハ本夜現在地附近ニ露管セントス

三、露管司令部 山本中佐

四、第三大隊長ハ聯隊及旅団司令部ノ露管區ノ警戒ニ任レ之ヲ統轄スヘシ

五、露管日直將校 河原中尉

六、露管衛兵トシテ第四中隊ヨリ一テ分隊(喇以ッ含ム)ヲ直チニ聯隊本部ニ差

シテ露管日直將校ノ指示ヲ受ケレムヘシ

七、給養ハ携帶糧秣ノ甲其補給ハ現地調辨トス

八、余ハ候家庄ノ西部ニ位置ス

聯隊長 山本中佐

下達表 命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

人馬 現 況

歩五〇聯隊本部

二月六日  
晴  
候家巷ヲ  
去リ南側  
頭ニ至ル

將校	下士官	兵	計	乘馬	輓馬	駄馬	計	備考
八	九	七六	九三	二			二	

日出 午前八時  
日没 午後六時三十分

一、午前八時候家巷縮宮地出發赤山ヲ右ニ見ツ、行進シ午前七時野莊廟東南約  
 二、料附近ニ約五六十名ノ敵ヲ射撃ヲ受クル共兵独力之ヲ攻撃ス、文獻約一時間  
 ニシテ敵ハ四五ノ死体ヲ遺棄シ東北オニ退却ス、我ニ損害ナシ  
 当時祿田ノ先遣隊タル歩兵第百十五聯隊ハ進路ヲ異ニシ行進遅滞セルモ如  
 ク連絡ニカカルモ連絡トレス  
 二、午後三時三十分頃歩兵中隊ハ湖熟鎮南側ニ於テ固ニ自勵火器ヲ有ル約一隊中  
 隊ノ敵ヲ射撃ヲ受ク、然レモ歩兵中隊ノ機敏且ツ適切ナル攻撃ヲ以テ敵腕  
 ノモ東方及北方ニ退却ス、湖熟鎮南側一帯ハ敵ノ堅固ナル既設陣地アリ之  
 ヲ一撃ニ護得セルハ最モ有利ナリキ、然レトモ部落北側ノ中約四十米ノ一ヶ  
 リークトノ橋梁破壊セラリ之カ架橋渡河ハ午後三時五十分ヨリ約一時

間ヲ其復セリ

三 午右四時湖熟鎮出發前衛ハ途中敵ヲ撃退シテ、前進中午後五時三十分南粵喬泚近ニ達スルマ突如同部落ヨリ自働火器及小銃ノ急射撃ヲ受テ、前衛ハ機ヲ失セス之ニ應射シ此ノ敵ヲ北方ニ撃退ス

聯隊長ハ之ニ跟随シテ南関頭北端ニ進出兵力ヲ集結セルモ未敵陣地ノ全貌ヲ明セス 通信班長中條少尉ヲシテ前衛司令官ニ連絡セシメ本道附近ニ機関銃ヲ有スル約ニ中隊ノ敵陣地ヲ固守シアリテ前衛司令官ハ敵ノ右側ヲ迂回シ攻撃スルノ決心ナルヲ知り 聯隊長之ヲ是認ス

日ハ西山ニ没シ暮靄漸ク濃ク方山ハ夕闇ノ中ニ糺糊タル頃 前衛方面ニハ彼我ノ銃聲盛ナリ

既ニテ四面暗黒トナリ 敵情地形ヲ辨セサルモ 堅固ナル數線ノ陣地ニ優勢ナル敵更ニ増加シ且茅九師団トノ友軍相撃ヲモ顧慮セラル、ヲ以テ全カノ夜襲ヲ断念シ前衛ヲシテ日没時ノ線ヲ確保セシメ現態勢ヲ以テ明拂曉以後ノ攻撃ヲ準備スルニ決ス

一歩作命書 歩

歩兵第百五十聯隊命令

三月六日午前四時  
於侯家巷

一、敵ノ首府ハ南京要塞ハ北方約十里ニシテ諸情報ニ依リハ軍事委員會及軍後  
方機關ハ退却セルモノ如ク其他ノ状況ハ不詳ナリ

尚北方六里ノ方山ハ敵ノ本防禦線ノ一部ニシテ若干ノ兵備アルモノヲ想セシ

師團ハ南京ニ向テ急進ヲスルニ本六日秣陵関ニ向テ急進ス

奥旅團ハ主力ヲ以テ湖熟鎮ニ向テ急進ス

二、聯隊ハ午前十時五十分迄ニ宿營地北端ヲ先頭トシ左ノ序列ヲ以テ集合ス

// MG ↑ 500<sup>m</sup> ↓ ☆ 臼 17L 8III 10 9 1A ⅢMG 古 4(計)

三、聯隊ハ旅團本隊トナリ本六日湖熟鎮ニ向テ急進ス

四、余ハ午前七時五十分宿營地北端ニ在リ

聯隊長 山本歩兵中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩作命茅 跡

歩兵茅百五十聯隊命令

十二月六日午後三時  
於 湖 熟 鎮

一 敵ハ本朝南京方面ニ約一〇〇名退却セリ

旅團ハ南京ノ洪華門(洪武門)ニ向ヒ追撃シタメ先ツ瀋化鎮ニ向ヒ前進ス

二 聯隊ハ先ツ瀋化鎮ニ向ヒ敵ヲ追撃セントス

三 茅三大隊長ハ1011IMG(後刻1114ト交代セル)平射砲一分隊ヲ指揮シ前衛トナリ本

隊ノ前方ハ〇〇米ヲ先ツ瀋化鎮ニ向ヒ急進スヘシ

四 爾余、諸隊ハ本隊トナリ左ノ順序ヲ以テ前進スヘシ

五 余、1114 IMG 1A IMG 古 古

五 余ハ湖熟鎮ニ在リ後本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

聯 隊 長 山本歩兵中佐

下 達 法 命令受領者ヲテ口達筆記セルム

歩兵茅百五十聯隊命令要旨

十二月六日午後六時  
於 湖 熟 鎮

一 茅九中隊長ノ指揮スル小隊ヲ茅三大隊長ノ指揮下ニ復ス



二 歩兵砲(九二式)ヲシテ本道西側ニ陣地ヲ占領セシメ前衛ノ戦斗ニ協力  
三 通信班ヲシテ聯隊本部ヲ基點トシテ前衛司令官及旅團司令部間ニ  
有線連絡ニ任スヘシ

四 午後十時頃第三大隊本部ノ森元伍長營絡ニ來リ果敢ニ前進セシテ第三大隊長  
又第三中隊ハ敵ノ増加ニ依リ敵中ニ在ルヲ報告ス  
茲ニ於テ聯隊長ハ左記ノ如キ要旨命令ヲ傳達セシム

要 旨 命 令

十一月廿九日午後十時  
於 旅 團 頭

一 貴官ノ果敢ナル攻撃ヲニ并シ其ノ勢ヲヌストス

二 聯隊ハ明拂既歩兵砲機関銃協力ノ下ニ当面ノ敵陣地ヲ攻撃スルニ企圖ヲ  
有ス

三 貴官ハ第三中隊ヲ第三中隊ノ占領セル線ノ右ニ連繫スル如ク陣地ヲ占領  
セシメ至嚴ナル警戒ヲ下ニ明拂既ノ攻撃ヲ準備スヘシ

四 敵ノ陣地ハ本防衛線ニ連繫スヘキモノ思テ得ヘク高廟附近ニモ有力ナル  
敵陣地アルモノト判断セラル 即チ現在貴官ハ其位置ニ在リテハ明拂既

ノ敵予以巧ハ覺束ナキト思考ス

六既ニ實官ノ許ニ派遣セル第九中隊長ノ指揮セル八目下第十中隊ノ位置ニ在

リ掌握セルハシ

六通信細構成ヲ實現セルニ成ラス 現在第十中隊ノ位置ニ構成シアリ

六第十線ノ整理完了セル速ニ聯隊本部ニ報告スヘシ

聯隊長ハ傳令ノ勞ヲ謝シツ、之ヲ帰還セルム

敵ハ攻勢ニ更ケルニ敵ノ射撃ハ益々盛ニシテ凄惨ヲ極ム

旅團命令要旨

五月廿午後二時三十分  
於 湖 野 嶺

一 歩兵第九連隊ハ先ノ高化嶺ニ向テ敵ヲ急追スヘシ

人 馬 現 況

歩一五〇聯隊本部

將	枝下士官	兵	計	乘馬	鞍馬	計	備未
八	九	七六	九三	二		二	

二 予前時予ハ旅團ハ高朝方山中間地區ヲ山西村ニ進タスニ要旨命令受領

五月廿日  
晴天

南関頭  
去中西  
郷ヲ留ル

二十七日午後三時五分森元伍長白裏ニ出ルニ宮坂伍長ト前後ニ聯隊長許某ヲ昨  
夜配兵十カリン陣地ハ接ニ敵ハ配兵シテ第三大隊本部ハ全ク敵中ニ在リテ如何  
ニスルモ摺入連絡ニ得スト出發以來ノ苦心ヲ報ス茲ニ於テ聯隊長ハ旅  
團命令ニ基キ左記聯隊命令ヲ下達ス

歩作命令

號

歩兵第百五十聯隊命令

十二月七日午前四時  
橋頭

敵情ニ関シテハ諸官ノ知レル通

旅團ハ本七日福化鎮方山中間地ヲテ南京東南角ニ向敵ヲ追撃ス

歩兵第百十五聯隊ハ山西村(南京東南方約四料)ニ至テ南京方向ノ敵情

地形ヲ偵察ス

聯隊ハ本ハ速ニ兵力ヲ集結シ旅團主力ヲ追及セズ

各隊ハ左記序列ヲ以テ前進ス

(約) MG 10 9 12 MG (約) 10 KM GA 古 ↓ 200M ↑ 10 KM

四 集合時刻及第三大隊本部及第一中隊ニ関シテ人別ニ示ス

五、余ハ聯隊長方立前方ニ在リテ行進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

下達誌 命令受領ヲ集メテ口達筆記セシム

右命令、外聯隊長ハ左記命令ヲ傳令ニ托シ、激勵シテ出發セシム

命令 西軍旨 十二月廿四日  
於 橋 頭

一、旅團ハ高廟ト方山ノ中間地區ヲ高廟西方約三軒ノ山西村ヲ經テ北方前進ス

二、聯隊ハ午前五時兵カヲ集結シ旅團ニ追及ス

三、實官ハ茅土中隊ヲ指揮シ敵ヲ警戒シテ、即刻聯隊ニ追及スヘシ

三、午前七時十分茅土大隊長ハ大隊本部及茅土中隊ノ約半部ヲ率ヒテ聯隊ニ合シ茅土中隊ノ残余ハ追テ到着スヘキヲ報告ス

當時茅九師團砲兵ノ榴霰彈、聯隊本部附近ニ盛ニ炸裂シ昨日來、我攻撃人同師團正面ノ敵ノ側面ニ至大ノ勇氣ヲ興ヘ其ノ攻撃ヲ容易トシタリ

午前七時五十分聯隊ハ轉進ヲ開始シ午之卅九時頃在前西郷旅團主力ニ合スルヲ得タリ

四、聯隊長ハ現地ニ於テ旅團長ニ狀況ノ報告シ爾後ノ行動ニ付キ細部ノ連絡ヲナシ且歩兵第百五十二聯隊ハ現在地兵力集結ヲ完結スル命令ヲ受ケ

五、聯隊長ハ歩兵砲ヲシテ旅團ノ前進ヲ掩護センメ歩兵第百十五聯隊ハ午前十時凹地ヲ超ヘテ前進シ旅團司令部之ニ續行シ敵ノ猛射下ニクリートノ太鼓橋ヲ各個躍進ヲ開始スルモ前進意ノ如クナラス

午前十時稍過ヨリ下黄壁附近ノ掩蓋陣地ヨリノ敵ノ火力愈々猛烈ヲ加ヘ刺ヘ南方解溪鎮方向ニ在ル數個ノトーチカヨリ熾烈ナル側攻火ヲ受ケ旅團司令部ノ前進ハ益々困難トナリ午後四時ニ至ルモ完全ニ通過ヲ了ラサルノ情況ニ在リ

六、此間聯隊長ハ明拂曉以後ノ爲メ中西郷後西郷ノ台ヨリ敵陣地ヲ偵察シ後圖ヲ畫策セリ當時第九師團ハ痛化鎮ヲ猛攻ヲ加ヤシ

未夕其歩兵ノ進出ヲ見ス

又聯隊ハ午後至リ屢々飛來セル友軍ノ飛行機ニ対シテ下黄野解發鎮附  
近敵陣地ノ爆撃ヲ要求シ旅團ノ攻撃ノ進捗ヲ企圖セシモ意思ヲ果サス旅團  
ノ第一戰ハ北西及南ノ三方ヨリ敵火ヲ受ケ其後ニハ「クリュー」ニ防ケテ攻撃  
ノ進捗至難ノ状況ニアリテ日没トナル聯隊長ハ独斷現在ノ態勢ヲ以テ未  
ノ攻撃ヲ準備スルニ決ス

七、同夜聯隊長ハ旅團長ニ左ノ要旨ノ意見ヲ具申ス

敵ハ本防衛線上ノ據点タル易山方山間ニ尚ホ甚クモ三線ニ亘ル縱深陣  
地帯ヲ編成シ頑強ニ守備スルモノト判断セラル

旅團ハ現在砲兵ヲ欠キ現在ノ兵力地形ニ於テ孤立之レニ猶突セントスルモ  
徒ニ全滅アルノミニテ師團ノ攻撃ニ協力ノ効果ナン故ニ本夜暗ヲ利用シ  
旅團ノ全カヲ後西郷中西郷前西郷ノ線ニ集結シ後固ヲ策スルヲ要  
當面ヨリノ攻撃ヲ續行セシカ爲ニハ第九師團ノ進出ヲ待テ之ニ連繫  
シテ順調ナル攻撃ノ進捗ヲ求メ概ネ三日間ニ後端ニ進出ヲ固ルヲ要